

# 釧路工業高等専門学校

## 目 次

I	選択的評価事項に係る評価結果	2-(1)-3
II	選択的評価事項ごとの評価	2-(1)-4
	選択的評価事項A 研究活動の状況	2-(1)-4
	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	2-(1)-6
<参 考>		2-(1)-9
i	現況及び特徴（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）	2-(1)-11
ii	目的（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）	2-(1)-12
iii	選択的評価事項に係る目的（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）	2-(1)-14
iv	自己評価の概要（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）	2-(1)-15
v	自己評価書等	2-(1)-16



## I 選択的評価事項に係る評価結果

釧路工業高等専門学校は、大学評価・学位授与機構が定める「選択的評価事項A 研究活動の状況」において、目的の達成状況が良好である。

釧路工業高等専門学校は、大学評価・学位授与機構が定める「選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」において、目的の達成状況が非常に優れている。

当該選択的評価事項Bにおける主な優れた点として、次のことが挙げられる。

- 平成19年度文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」において選定された「オープンソースソフトウェア利用技術修得プログラム」の成果を活かし、社会人技術者を対象とした公開講座を継続して実施し、成果を上げている。

## Ⅱ 選択的評価事項ごとの評価

### 選択的評価事項A 研究活動の状況

A-1 高等専門学校の目的に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究の目的に沿った活動の成果が上がっていること。

#### 【評価結果】

目的の達成状況が良好である。

#### (評価結果の根拠・理由)

A-1-① 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

当校は、国立高等専門学校機構の中期目標に基づいて、「科学技術の進歩に貢献する教職員の研究活動を活性化させる方策を検討する。本校が持つ知的資源を活用して地域を中心とする産業界や地方公共団体との共同研究・受託研究への積極的な取組を促進するとともに、その成果の知的資産化に努める。」を中期目標に掲げている。

当校の研究活動は、新しい技術や知識を得ることによって、(1) 地域産業の発展に貢献できる技術者、国内外で活躍できる技術者の育成に対応する、(2) 地域産業界と連携してこれまで地域が培ってきた技術の高度化と融合を図り、新産業の創出に寄与する共同研究等を行うことで、実践的技術者の質の向上を図る、(3) 地域住民の生涯教育や社会活動を支援することを目的としている。

教員の研究及び共同研究等を支援するために、地域共同テクノセンター、研究企画室が設置され、事務組織として、研究協力室、教育研究支援センターが設置されている。

地域共同テクノセンターは、当校と企業間及び大学間、研究所間の共同研究を推進することを目的に設置されている。各機関との共同研究を実現するために、地域共同テクノセンターによって、全教員の研究テーマがシーズ集にまとめられ公開されている。各教員の研究分野は多岐にわたるため、学内において各教員は個人ごとに研究を推進することが多いが、共同研究においては、分野を越えた連携が容易なことから当校の教員複数と企業を含めた共同研究の実績もある。

また、地元企業の情報の共有にとって重要な拠点として釧路工業技術センターがあり、地域共同テクノセンターと釧路工業技術センターとの技術会合等の両者が連携した研究活動が行われている。大学及び北海道内の研究所との共同研究を活発にするために、北海道内の高等専門学校4校、大学間連携協定及び研究機関との連携協定が実現している。

研究企画室は、外部資金の獲得を目指して設置されている。研究企画室によって、校長裁量経費を得て教員の研究活動のための旅費の支援、学内教員同士の共同研究の推進支援及び論文投稿の支援がなされている。また、研究企画室によって、学内での定期的な研究発表会や研究に関するFDが企画されている。

教育研究支援センターは、主に技術職員で構成されており、その業務は、教員の教育研究活動に関することや、公開講座、地域貢献、産学連携等に関することであり、教員と連携して研究を推進している。

研究協力室は、事務組織であり、上述のような研究活動に関する事務的支援を行っている。研究に関する全ての事務的な窓口を一つにすることにより、研究に関する外部からの問い合わせも内部からの要望も、効率よく処理することができるようになっている。研究申請の案内、申請書の提出、実績報告書の提出等の業務が、全て行われている。

これらのことから、高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、

機能していると判断する。

A-1-② 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

当校の研究活動の目的の一つである「(1) 地域産業の発展に貢献できる技術者、国内外で活躍できる技術者の育成に対応する。」という目的に沿った活動の成果に、次のようなものがある。

英語の教授法の研究のほか、「知識の熟達化を促す学習者指向のオープンプラットフォーム学習支援システムの開発」においては教材が作成され、電気工学科2年次のプログラミング教育科目「電子計算機」にて活用されている。また、電子情報システム工学専攻1年次の「ソフトウェアアーキテクチャ」においても、その考え方を取り入れるなど、研究の成果を上げている。

当校の研究活動の目的の一つである「(2) 地域産業界と連携してこれまで地域が培ってきた技術の高度化と融合を図り、新産業の創出に寄与する共同研究等を行うことで、実践的技術者の質の向上を図る。」という目的に対しては、次のようなものがある。

平成19年度文部科学省「ものづくり技術者育成支援事業」にて採択された「北方型住宅建設を介した地域連携によるトータルマネジメント能力育成プログラムの開発」は、当校の教職員・学生・地元企業による共同事業であり、卒業研究などの教育への還元ばかりでなく、他大学や他高等専門学校と連携した共同研究へと発展するなど、成果を上げている。

当校の研究活動の目的の一つである「(3) 地域住民の生涯教育や社会活動を支援する。」という目的に沿って、コミュニケーションの研究は、授業の中で活かされているばかりでなく、学内における朗読会のほか、地域における朗読会が実施されるなど、地域住民の生涯教育や社会活動の支援に活かされている。

これらのことから、研究の目的に沿った活動の成果が上げられていると判断する。

A-1-③ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

当校では、教員の研究及び共同研究等を支援するために、地域共同テクノセンター、研究企画室が設置され、事務組織として、研究協力室、教育研究支援センターが設置されている。各組織は、年度当初に中期目標に基づいて年度計画を立て、年度末に達成状況を評価し、次年度へ改善項目を申し送りしている。平成21年度に研究企画主事が置かれ、研究に関わる事項を担当している。さらに、平成23年度に、研究企画主事の下に研究企画室が設置されている。研究企画室によって、教員による学内での研究会が開催されるとともに、科学研究費申請書が把握され、各研究者の研究の状況をより一層細かく把握し、研究者の情報を基に、共同による研究応募申請を支援している。日本学術振興会の科学研究費補助金獲得については、科学研究費FDが開催され、不採択の場合の審査結果をFD講演者がフィードバックすることで、申請書の表現や計画などの書き方について解説して改善を図っている。平成23年度は、FDの講師による分析結果が紀要に掲載され、FDに参加できなかった教員にも情報が伝えられている。

これらのことから、研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能していると判断する。

以上の内容を総合し、「目的の達成状況が良好である。」と判断する。

選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

B-1 高等専門学校の目的に照らして、正規課程の学生以外に対する教育サービスが適切に行われ、成果を上げていること。

【評価結果】

目的の達成状況が非常に優れている。

(評価結果の根拠・理由)

B-1-① 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

当校の中期目標では、その前文にある教育理念の中で、地域と連携し地域に貢献すると謳われており、地域貢献が教育上の大きな柱と位置付けられている。

また、国立高等専門学校機構の第2期中期計画では、「小・中学校に対する理科教育支援の機会を増大するとともに、満足度調査において公開講座の参加者の7割以上から評価されるように、地域の生涯学習機関として各学校における公開講座を充実させる」ことが明記されている。これを受けて、当校の中期目標においても、学生及び教職員と地域社会との連携を大きな柱として、正規課程の学生以外に対する教育サービスが、①技術者のキャリアアップ教育、②地域住民の生涯教育や社会活動への支援、という表現で明確に任務として掲げられている。

上記の目的に基づいて、当校で実施されている正規課程の学生以外に対する教育サービスは、1. 公開講座、2. こども開放プラン、3. 出前授業、4. 他機関との連携事業、5. その他各種イベントへの参加の5つに区分される。

1. 公開講座

当校で実施されている公開講座は、基本的にすべて無料で開催されており、一般市民を対象とした生涯学習向け講座と企業の技術者を対象として先端技術に関する技術習得を目指す技術者向け講座である。開催場所は、当校のほか釧路市内の施設を利用することにより、参加者の利便性に配慮されている。講座のいくつかは、道民カレッジ連携事業として実施されており、周知するための広報誌へ掲載されているほか、ポスターの作成・配布、当校ウェブサイトへの掲載、前年度受講者への案内（リピーターの確保）が行われている。

また、平成19年度文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」において選定された「オープンソースソフトウェア利用技術修得プログラム」の成果を活かし、毎年度取り扱うオープンソースソフトウェアを替えて、社会人向けの技術講座として「オープンソース」を継続的に実施している。

2. こども開放プラン

こども開放プランは、青少年の理科離れの抑制や科学技術への興味の喚起のために行われている。小・中学生を対象に、夏休みや冬休みを利用して当校の実験室や創造ラボ室で実施されている。各中学校へのチラシの配布や当校のウェブサイトへの掲載等によって、広報活動が行われている。

3. 出前授業

(1) 小・中学校への出前授業

当校の教員が小・中学校を訪問し、科学等の実験や授業が行われている。最近では、一般教育科の教

員も参加して、幅広いジャンルとなっている。平成 24 年度に実施される出前授業の案内は、釧路・根室・帯広・オホーツク管内にある全中学校（139 校）に対して行われているほか、当校ウェブサイトにも掲載されている。出前授業の実施については、テーマ一覧を各中学校に配付して選択してもらうという形式が取られている。

#### (2) 地域へ出前授業

当校では、平成 23 年度から、「出前ものづくり教室」として、科学技術と接する機会が不足している地域へ出かけて行って講座を実施する活動が行われている。平成 23 年度は、音更町教育委員会及び幕別町教育委員会との連携によって、当校の情報工学科が、ロボットに関連するテーマで活動を行っている。

### 4. 他機関との連携事業

#### (1) 釧路少年少女発明クラブ

釧路少年少女発明クラブは、子供たちの「なぜ」「どうして」などの好奇心や「こんなものを作ってみよう」という若々しい知恵と創造力を大事にして豊かな感性を培うとともに「科学する心」「工夫考案の夢」を大切に育てることを目的として、平成 20 年 1 月に設立されている。当校は、釧路少年少女発明クラブの設立以来、連携して事業を実施しており、当校教員・北海道教育大学釧路校教員・釧路市立幣舞中学校教員が中心となって毎月 2 回講義を行い、科学技術の面白さやものづくりの楽しさを子供たちに伝えている。

#### (2) 畜大ふれあいフェスティバル

当校は、畜大ふれあいフェスティバルを、帯広畜産大学との連携事業として平成 23 年度から行っている。当校からは、電気工学科・電子工学科・情報工学科によるロボットの操作体験やデモンストラーション、建築学科による地震に強い住宅の模型製作が出展されている。

### 5. その他各種イベントへの参加

#### (1) 釧路みなと祭りへの参加

当校の様子を広く一般市民に知ってもらうために、毎年度 8 月に行われる釧路みなと祭りに参加している。主な出展としては、ロボット操作、お絵かきロボット、ペットボトルロケット飛ばし、床発電コンテスト（釧路コールマインとの共催）、名刺作り、高専バスペーパークラフト、ロボコン DVD、全方位カメラ、学校紹介、入試広報である。

#### (2) 青少年のための科学の祭典（サイエンス屋台村）への参加

当校は、青少年に対して科学技術の面白さや興味を喚起するために、釧路市内の高等学校や大学とともに青少年のための科学の祭典（サイエンス屋台村）に参加している。平成 23 年度の主な出展としては、「3つの色から7つの色ができちゃう」、「万華鏡を作ろう」である。

#### (3) 釧路地場工業展示会（メイド in くしろ）への参加

釧路地場工業展示会（メイド in くしろ）は、釧路の地場産業を紹介するイベントとして 2 年に 1 度開催されている。平成 23 年度は、当校からは、ロボット操作 3 次元設計作品、オリジナル名刺作り、学科紹介が出展されている。

これらのことから、高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されていると判断する。

B-1-② サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

正規課程の学生以外に対する教育サービスのうち、平成23年度に当校によって主催されているものは、公開講座、こども開放プラン、出前授業の3つである。

平成23年度の公開講座は、10講座が実施され、平成24年度も8講座の実施が予定されている。平成23年度の公開講座では、募集定員に満たない講座もあるが、すべての講座で満足度が100%となっており、内容は一般市民向けから技術者向けまでとなっている。

平成23年度のこども開放プランは、11講座が実施され、平成24年度も10講座の実施が予定されている。平成23年度のこども開放プランでは、ほぼ定員が充足されているが、テーマによっては定員を大幅に上回るものもある。すべての講座で満足度が100%となっている。

平成23年度の出前授業は、15中学校(20クラス)・10小学校(14クラス)で実施され、平成24年度も中学校に対する15テーマ・小学校に対する11テーマが用意されている。

満足度調査の結果によれば、全体を通じて80%台が3校ある以外は90%以上であり、好評を得ている。

教員は、講座の内容やテーマに関して専門的識見を活かして計画に関与している。また、事務組織は、正規課程の学生以外に対する教育サービスの企画や広報活動、アンケートの実施・集計・分析等を行っている。

これらのことから、サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっており、また、改善のためのシステムがあり、機能していると判断する。

以上の内容を総合し、「目的の達成状況が非常に優れている。」と判断する。

#### 【優れた点】

- 公開講座、こども開放プラン、出前授業など、極めて積極的に教育サービス活動を展開し、地域に貢献している。
- 平成19年度文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」において選定された「オープンソースソフトウェア利用技術修得プログラム」の成果を活かし、社会人技術者を対象とした公開講座を継続して実施し、成果を上げている。



< 参 考 >



i 現況及び特徴（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）

1 現況

(1) 高等専門学校名 釧路工業高等専門学校

(2) 所在地 北海道釧路市

(3) 学科等の構成、学生数及び教員数

(平成24年5月1日現在)

学生数： 単位：人

学科	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	合計
機械工学科	36	30	30	50	30	176
電気工学科	40	46	47	43	35	211
電子工学科	35	44	46	44	38	207
情報工学科	43	35	44	41	35	198
建築学科	33	40	32	15	38	158
計	187	195	199	193	176	950

専攻	1学年	2学年	合計
建設・生産システム工学専攻	6	11	17
電子情報システム工学専攻	17	18	35
計	23	29	52

教員数： 単位：人

区分	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
一般教育科	10	14	0	0	0	24
機械工学科	4	4	0	1	0	9
電気工学科	4	4	0	1	1	10
電子工学科	4	5	0	1	0	10
情報工学科	4	5	0	2	0	11
建築学科	4	4	0	2	0	10
計	30	36	0	7	1	74

(他に校長1、嘱託教授1)

2 特徴

釧路工業高等専門学校（以下、本校）は、地域産業界の強い要望により実践的技術者を養成するための高等教育機関として、昭和40年度に機械工学科、電気工学科、建築学科の3学科をもって設置された。その後、昭和45年度に電子工学科、昭和61年度には情報工学科が増設され、5学科構成として現在に至っている。平成16年度には、準学士課程の上により高度な専門知識と技術を教授し、創造的な研究開発や先端技術に対応できる人材を育成するために複合・融合的な工学専門領域の教育を目指して、建設・生産システム工学専攻及び電子情報システム工学専攻の2専攻からなる専攻科が設置された。

この間、平成7年には地域連携を促進するために、産学官共同研究・連携推進協議会を設置し、平成12年度に

本校の地域産業界への貢献、それを通じた実践的技術者教育の一層の充実を図るために、地域共同テクノセンターを創設した。さらに平成17年6月には、この協議会を発展的に解消し、本校を支援し活用することを目的として、地域企業や団体、個人会員から構成される外部組織の釧路工業高等専門学校地域振興協会を設立していただいた。平成17年度以降、地域振興協会主催による本校専攻科生の研究発表会が毎年開催され、本校の研究シーズを地域産業界に発信し続けている。

本校は、北海道東部の十勝、釧路及び根室3振興局管内における唯一の工学系高等教育機関として、開校以来6,500名を超える卒業生を社会に送り出すとともに、地域との連携を行なってきた。卒業生は企業技術者、教育研究機関の教育・研究者として活躍している。また、本校には電気系3学科、建築学科があるなど、ユニークな学科構成となっている。

本校の理念は、創造性のある実践的技術者の育成と地域貢献・地域連携である。創立以来40年の伝統をもつ校訓は信頼・努力・明朗であり、教育目標は(1)人格をそなえ、自己を律する人物を育てる、(2)広い視野を持ち、創造力豊かな技術者を育てる、(3)チャレンジ精神に富んだ人物を育てる、としている。本校では、この理念と目標に基づき、自己の基盤となる専門分野の基礎知識を備え、多様な技術的課題に対するエンジニアリングデザイン能力、コミュニケーション能力をもつ技術者の育成を目指して、教育・研究、地域連携を行なっている。また、学業の他に、技術者を目指す者の人間教育の一貫として、課外活動を重視し成果を上げており、平成23年度には第4回高専における設計教育高度化のための産学連携ワークショップにおける3次元デジタル設計造形コンテスト優勝などの実績がある。

本校の教育プログラムが国際的な学士教育課程のレベルにあることを立証し、学生及び社会の期待に応えるため、平成18年度に「生産情報システム工学」教育プログラムとして工学（融合複合・新領域）関連分野でJABEE認定を取得し、さらに平成23年度には継続認定を取得した。

## ii 目的（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）

### 1. 釧路工業高等専門学校の使命及び目的

本校は、北海道東部に位置する技術系高等教育機関として、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的として設立され、地域産業の発展に貢献できる技術者、国内外で活躍できる技術者の育成、また、産業界への技術支援、技術者のキャリアアップ教育、地域住民の生涯教育や社会活動への支援を任務としている。これらの実現のために「創造力、問題発見・解決能力をもち実践力となる技術者を育成し、また地域の社会的・技術的要請に応え、地域と連携し、地域に貢献する」ことを理念とする。

本専攻科は、5年間の高等専門学校における教育の基礎の上に、より深く高度な専門知識及び技術を教授し、これまでに培われてきた実践的技術者としての素養に加え、より高度な技術開発能力と研究開発能力を身につけた創造型技術者の育成を目的としています。

創造力、問題発見・解決能力をもち実践力となる技術者を育成し、地域の社会的・技術的要請に応え、地域と連携し、地域に貢献する。

### 2. 養成すべき人材像

本校は、上記の理念の下、本校設立以来の校訓として「信頼・努力・明朗」があり、教育目標は(1)人格をそなえ、自己を律する人物を育てる、(2)広い視野を持ち、創造力豊かな技術者を育てる、(3)チャレンジ精神に富んだ人物を育てる、である。これらの教育目標の下で養成すべき人材像として、準学士課程の学生については「実践的・創造的技術者」を目指し、専攻科課程の学生について「高い課題設定・解決能力を備えた実践的・創造的技術者」を目指すこととしている。

### 3. 釧路工業高等専門学校の教育目標と学習目標

本校設立以来の校訓として「信頼・努力・明朗」があり、教育目標は(1)人格をそなえ、自己を律する人物を育てる、(2)広い視野を持ち、創造力豊かな技術者を育てる、(3)チャレンジ精神に富んだ人物を育てる、である。また、準学士課程及び専攻科課程それぞれの学生に対して以下のように学習目標を設定している。

#### 【準学士課程】（実践的・創造的技術者）

- A：（技術者として社会に貢献するために） 人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球的規模で社会問題や環境問題を考える基礎能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する基礎能力を身につける。
- B：（地域・社会に貢献するために） 地域の産業や社会の抱える課題に対処できる基礎能力を身につける。
- C：（技術的課題を解決できるように） 工学の幅広い基礎知識（数学、自然科学、情報技術、基礎工学）を修得し、それらを応用する能力を身につける。
- D：技術者として自己の基盤となる専門分野の知識を修得し、それを応用する能力を身につける。
- E：技術的課題を分析・総合し、解決するための計画を立て、その計画を実行して課題を解決する基礎能力を身につける。さらに、チームワークで仕事をする基礎能力を身につける。
- F：文章、口頭、図表や視覚的な方法によって、効果的にコミュニケーションができる基礎能力を身につける。すなわち、日本語で論理的に記述し討論する能力、および簡単な論理的文章を英語で記述し、基本的な英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につける。
- G：（技術の進展や社会の変化に対応できるように） 継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。

#### 【専攻科課程】（高い課題設定・解決能力を備えた実践的・創造的技術者）

- A：（技術者として社会に貢献するために） 人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球的規模で社会問題や環境問題を考える応用能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会

に対して負っている責任を理解する応用能力及び技術者としての倫理観を身につける。

- B：（地域・社会に貢献するために） 地域の産業や社会の抱える課題に対処できる応用能力を身につける。
- C：（多様な技術的課題を解決できるように） 工学の幅広い基礎知識（数学，自然科学，情報技術，設計・システム系，情報・理論系，材料・バイオ系，力学系，社会技術系の基礎工学）を修得し，それらに応用する能力を身につける。
- D：技術者として自己の基盤となる専門分野の知識（専門応用系，工学実験系，問題解決系，実務対応系）を修得し，それに応用する能力を身につける。
- E：多様な技術的課題を分析・総合し，解決するための計画をたて，その計画を実行して課題を解決するデザイン能力を身につける。さらに，チームワークで仕事をする能力を身につける。
- F：文章，口頭，図表や視覚的な方法によって，効果的にコミュニケーションができる応用能力を身につける。すなわち，日本語で論理的に記述し討論する能力，および簡単な論理的文章を英語で記述し，英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識（英検準2級以上またはそれに相当する能力）を身につける。
- G：（技術の進展や社会の変化に対応できるように） 日本語だけではなく英語も使用して，継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。これらを明確に示す。

### 3. 各専門学科および専攻ごとの教育上の目的

さらに，各学科・各専攻においてはそれぞれの専門分野に応じて以下のように教育上の目的を定めている。

#### （機械工学科）

機械工学科は，機械設計製図（CADを含む），機械工作法，材料力学，熱・流体工学・機械力学等の機械工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用した創造的能力をもち，さらにコミュニケーション能力及びデザイン能力を持つ人材を育成することを目的とする。

#### （電気工学科）

電気工学科は，エネルギー，情報通信，制御等の電気工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用した複合領域に対応した応用力と問題解決能力を持ち，さらに，他の技術者と連携した活動ができるコミュニケーション能力を持つ人材を育成することを目的とする。

#### （電子工学科）

電子工学科は，電子デバイス，電子制御，情報通信等の電子工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用した自発的な問題発見能力を持ち，さらに，専門分野との関連の上に自ら課題を創出する高いデザイン能力を持つ人材を育成することを目的とする。

#### （情報工学科）

情報工学科は，情報化社会に寄与することのできる情報工学及び情報技術に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用した問題解決能力を持ち，さらに，国際社会に貢献できる高いモラルとコミュニケーション能力を持つ人材を育成することを目的とする。

#### （建築学科）

建築学科は，計画，構造，生産等の建築学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用したトータルコーディネート能力を持ち，さらに創造的で柔軟性のある能力を持つ人材を育成することを目的とする。

#### （建設・生産システム工学専攻）

建設・生産システム工学専攻は，機械工学，建築学等を基盤とした共通・境界領域の知識を応用し，社会基盤分野において活躍できる応用力と創造力を兼ね備えた設計・開発能力を持つ人材を育成することを目的とする。

#### （電子情報システム工学専攻）

電子情報システム工学専攻は，電気，電子，情報工学等の関連工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用した境界領域に関する知識を持ち，さらに，応用力と創造力を兼ね備えた研究開発能力を持つ人材を育成することを目的とする。

### iii 選択的評価事項に係る目的（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）

#### 選択的評価事項 A 「研究活動の状況」に係る目的

本校は、実践的技術者を育成する高等教育機関として、教育内容を技術の進歩や社会の要請に即応させるための研究を行なうこと、及び地域連携の一環として地元企業との共同研究等を行ない、その成果を教育に還元することを研究活動の目的としている。

これは、高等専門学校設置基準第2条第2項「前条の場合において、高等専門学校は、その教育内容を学術の進展に即応させるため、必要な研究が行われるように努めるものとする」、及び独立行政法人国立高等専門学校機構の目的「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに、我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ること」と業務の範囲「機構以外の者からの委託を受け、又はこれと共同して行なう研究の実施その他の機構以外の者との連携による教育研究活動を行なうこと」や、高専機構の中期目標の中の研究に関する目標「教育内容を技術の進歩に即応させるとともに教員自らの創造性を高めるため、各学校における研究活動を活性化させる方策を講じる。国立高等専門学校の持つ知的資源を活用して、地域を中心とする産業界や地方公共団体との共同研究・受託研究への積極的な取り組みを促進するとともに、その成果の知的財産化に努める。」に合致するものである。

本校の研究活動の目的及び方針は、以下の通りである。

- 1) 地域産業の発展に貢献できる技術者、国内外で活躍できる技術者の育成に対応する。
- 2) 地域産業界と連携してこれまで地域が培ってきた技術の高度化と融合を図り、新産業の創出に寄与する共同研究等を行うことで、実践的技術者の質の向上を図る。
- 3) 地域住民の生涯教育や社会活動を支援する。

#### 選択的評価事項 B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

釧路工業高等専門学校は、早期からの技術教育による実践的な技術者の育成を目的に、地域の熱望に答える形で、昭和40年に開校した。以来、多くの技術者を社会に送り出すとともに、地域との繋がりを深めながら、今日に至っている。独立行政法人国立高等専門学校機構法によれば、「公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること」が謳われており、道東唯一の高等教育機関として、釧路高専の所有する教育研究機能・資源を広く社会に開放・還元することが存在意義のひとつと考えている。

このような事業を展開することにより、地域社会に対する高専の存在をアピールすることができる。それとともに、地元産業界や地域住民との結びつきや連携を深めることが出来、様々な交流による情報交換や体験等から教員の資質向上も期待され、本校の教育理念である「広い視野を持つ『実践的で創造的な技術者』の養成」及び本校の養成すべき人材像の一つである「地域・社会に貢献できる技術者」を高いレベルで維持していくことが可能である。

主な教育サービスを以下に示すが、本校単独主催のものが1～4の項目、地域の産学管連携主催のものが5、6の項目であり、それぞれ正規課程の学生以外を対象に毎年計画的に実施されている。

1. 公開講座
2. こども開放プラン
3. 出前授業
4. 図書館開放事業
5. 他機関との連携事業
6. その他各種イベントへの参加

#### iv 自己評価の概要（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）

##### 選択的評価事項A 研究活動の状況

研究環境の整備及び各教員による研究及び共同研究が活発に行われ、さらに改善をしていく体制も実現できている。その成果も上がっており、本校の研究活動の目的に掲げた3つの項目「1）地域産業の発展に貢献できる技術者、国内外で活躍できる技術者の育成に対応する、2）地域産業界と連携してこれまで地域が培ってきた技術の高度化と融合を図り、新産業の創出に寄与する共同研究等を行うことで、実践的技術者の質の向上を図る、3）地域住民の生涯教育や社会活動を支援することを目的にしている。」のいずれも達成している。

##### 選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

正規課程の学生以外に対する教育サービスが、本校の教育理念のなかで学校本来の任務として明確に示され、その実施計画や具体的方針を設定して明らかにされている。公開講座は、一般市民の生涯学習意欲に応えるもの、青少年の科学への興味喚起や子ども達の理科離れに対応するもの及び企業向けの先端技術に関するものを豊富な内容で計画的に実施されている。

こども開放プラン、出前授業も多彩なプログラムを用意し、小中学生のニーズに応える内容により数多く実施されている。

各事業の広報活動は、参加者確保の目的以外に本校の取組を社会に広く伝えるための重要な位置づけとして積極的に行われ、また、教員シース集を刊行し一般市民・企業に役立つ情報を発信している。

平成23年度の実施状況は、公開講座、こども開放プラン、出前授業の3事業で開催回数、参加者数、アンケート調査による満足度とともに十分な成果を上げている。アンケートは全受講者に対し行われ、また、教員と事務との協力による、改善のためのシステムがあり、サイエンス・パートナーシップ・プログラムの採択による新事業の実施などに結びついている。

## v 自己評価書等

対象高等専門学校から提出された自己評価書本文については、機構ウェブサイト（評価事業）に掲載しておりますのでご参照下さい。

機構ウェブサイト <http://www.niad.ac.jp/>

自己評価書 [http://www.niad.ac.jp/sub\\_hyouka/ninsyou/hyoukahou201303/kousen/no6\\_1\\_3\\_jiko\\_kushiro\\_k\\_s201303.pdf](http://www.niad.ac.jp/sub_hyouka/ninsyou/hyoukahou201303/kousen/no6_1_3_jiko_kushiro_k_s201303.pdf)